



広島市シニア大学院

広 報 誌

# だいがくいん



令和7年度第8号(12月15日)

編集/発行 大学院自治会文化部

平成28年8月創刊

## 研修旅行を終えて

さわやかな初冬の空気を感じながら、11月20日、大山への旅へ出発しました。今年是一年一回の日帰り旅行となった研修旅行でした。



前日に雪が降り、白い帽子を冠った大山を見ながら、「ひるぜん高原センター」で、まずお買い物。大山スカイラインを走って



「リストランテ・天空」でイタリアンフレンチのランチを頂きました。暖かい暖炉の炎を見ながら、出来上がったばかりのお料理が次々と運ばれてくるおもてなしをしていただき、皆さんの笑顔がこぼれました。二か所のランチ会場から全員一會

場へ集合して、レクリエーションのはじまり、はじまり。オカリナ演奏、ウクレレサークル発表に続いて、懐かしいフォークダンス「オクラホマ・ミキサー」を笑いながら踊りました。締めはもちろん、「シニア大学応援歌」です。大山に抱かれた小さな広場での大合唱でした。とっとり花回廊で記念の集合写真を撮り、帰りのバスの中でゲームやお笑い



DVDを見ながら、帰途につきました。

第1回研修部会(6月26日)から11月20日の当日まで、リーダーを中心にチームワークの良い部員の活発な活動がありました。もちろん笑顔とともにです。自然の中で何かをする喜び、楽しさを感じつつ、全員ケガも無く、無事に帰ってこられた喜び、これに勝るものはありません。

【シニア大学院 研修部長 有村賀代子】

## <令和7年度 第2回 班別野外レクリエーション報告

◎2班 実施日：11月18日(火)

見学場所：(株)ヤマサキ ラサーナ西風新都工場 懇親会：「久里川」

広島バスセンターを出発し、横川駅を經由して小さな路線バスの旅で向かう道中では、沿道や山々の美しい紅葉を眺めながら、1時間ほどの楽しいおしゃべりの時間となりました。終点の「こころ産業団地」に到着後、徒歩5分ほどで(株)ヤマサキ ラサーナ西風新都工場へ向かいました。

「こころ産業団地」の名前のとおり、日頃目にする企業の大きな建物が並ぶ中、目的地の工場に到着。



ラサーナは、「洗い流さないトリートメント」をはじめ、海藻成分を用いたダメージヘア向けのシャンプー・トリートメントなどを全国に展開する、広島発の美容メーカーです。



見学では、原料を混ぜる窯の稼働の様子や、外気の流入を調整して埃やゴミを防ぐクリーンな充填室、レーンで運ばれた製品を一つ一つ丁寧に手作業で検品する作業員の皆さんの姿を見学しました。現場では多くの女性が活躍されていることも印象的でした。

「La sana (ラサーナ)」とはイタリア語で「健康で美しい女性」を意味するそうです。

見学後は屋上庭園へ上がり、草花や、紅葉の美しい景色を楽しんだのち、お土産までいただきました。その後、料亭「久里川」さんのお迎えのバスで懇親会会場へ移動しました。講座日だけではなかなかゆっくり話す機会がありませんが、この日は帰る時間まで和やかな雰囲気楽しく過ごすことができました。2年生の皆さんとご一緒できる講座日も残り少なくなってきましたが、大変充実した良い時間となりました。

【大学院1年2班 文化部 川相喜代子】

### ◎3班 実施日：11月13日(木) 見学場所：日本銀行広島支店



十一月十三日(木曜日)、3班13名は市民病院前に集合しました。予定より早く集まったので、そのまま日本銀行広島支店に向いました。日本銀行ではまず5階の講義室でいろいろと説明を受け、その後、一階に移動して窓口業務の説明を受けました。「金庫はありますか？」との質問に対し「あるけれど、場所は教えられない」との事でした。1階での説明・見学が終わり、又5階に案内されました。

そこではお金の日本における歴史や実際の硬貨の重さを体験したり又、皆と集合写真を撮ったりして、予定時間を30分もオーバーしてしまいました。楽しく過ごした日本銀行を後に徒歩10分位の昼食会場(まめ福)に向いました。当初は、2つの部屋に割り当てられていましたが皆と一緒に一つの部屋にしてもらいました。ひつつきもつつきの食事会場となりましたがおしゃべりに大いに盛り上がりあっという間の楽しい時を過ごしました。



【大学院2年3班 中村友希乃】

### 赤い羽根募金に参加して

11月14日(金)秋の空が澄み渡り、心地よい風が吹く中、社協の方4名、大学、大学院、学友会の有志計31名で、そごうを中心とする紙屋町エリア各所に分かれ、「赤い羽根共同募金」活動のため、私達は旗を持ち、街角に立ちました。昼間30分間の短い活動でしたが、カープグッズを手に持ち、元気よく募金を呼びかけました。通り過ぎる人々が笑顔で小銭を募金箱に入れてくださいました。金額の多寡ではなく、見ず知らずの人々の思いやりや温かさに触れ、「赤い羽根共同募金」は単なる寄付活動ではなく、人と人の心のつながりを育む活動だと感じました。募金額が昨年を少し上回ったと聞き、微力ながら、社会貢献できたことを嬉しく思います。



【大学院2年1班 津江 瑞穂】